

えどごま 江戸独楽

江戸時代に考案された木製のこまで、歴史は300年以上。そのルーツは扇子や刀の上に乗せて楽しむ曲芸でお馴染みの「曲独楽」です。そこから「からくり独楽」や「ひねり独楽」などに派生しました。縁起物や悪魔払いの意味があるという赤色が多く目立ちます。広井さんが語った「こま雑談」の一部を紹介します。

◆曲独楽

曲芸用のこま。マジシャンの方はパフォーマンス用に、海外の方はインテリア用に購入することもあります



◆からくり独楽

図面も型もありません。ただ手が覚えていきます。動かすと、「あともう少し見たい」というところで終わってしまう。これがこのこまの醍醐味



◆ひねり独楽

シンプルなこまが一番難しい。`お尻、を切る瞬間が一番神経を使います



体験・販売の工房。軒先には材料の木材が積まれています。「江戸独楽」作りには30年以上乾燥させたミズキとカツラを使用。

広井木工所 ※都内で展示会のため1月15日(日)まで不在
上今泉1-16-1 ☎233・1192

インターネット放送局で動画配信中

インターネット放送局で「海老名の職人〜江戸独楽〜」を配信中です。併せてご覧ください。

海老名市インターネット放送局 検索

一人で作業をしているので都合がつかない時もありますが、自宅を兼ねた工房ではこま作り体験も行っています。興味がある方に、ぜひ触れてほしい。ご希望があればお作りすることもできますので、お気軽にお問い合わせください。



遊びやものづくりの文化を大切に

以前はふるさとまつりやコミセン講座、県の産業技術センターなどでこま作りを教えていた時期もありました。今はなかなかお受けできなくなりましたが、海老名の方にも「江戸独楽に触れてほしい」

ちは便利だけれど、その一方で、ものづくりや文化に対する関心が薄くならないかと懸念しています。



私は東京都江東区大島で生まれ育ちました。代々江戸独楽師の家系で、私で4世代目です。初めてこまを作ったのは9歳の時。夏休み友達に疎開してしまい、時間をもて余していた時に作り始めたのがきっかけです。かれこれ70年以上作っています。父から受け継いだ「曲独楽」や「からくり独楽」、私のオリジナルを併せたら1万種類を超えるかもしれません。

作り続けて70年以上



広井政昭さん（江戸独楽師／上今泉在住・81歳）

江戸独楽職人は3人だけ

こま作りは手間と時間がかかります。特に「曲独楽」は、木を成型後、色付け・乾燥・バランス調整を繰り返す作業です。この工程を7〜8回行い、制作には2〜3か月かかります。「からくり独楽」は1日1個作れるかどうか。だから江戸独楽師として生計を立てるのは非常に厳しい。以前は30人ほど弟子がいましたが、現在の職人は、私と弟子を入れて3人だけです。誰かに継承してほしいけれど、現状は難しい。

海老名に住んで40年今と昔

子どもが4人生まれ、縁あって約40年前に上今泉に住まいを構えました。当時は人口が5万人程で、この辺り一帯は海老名耕地が見渡せ大山もよく見えました。今は見られない光景ですが、正月には近所でも、子どもたちがよくこまを回していたんですよ。

ここ数年で海老名は大きく変わりましたね。海老名駅周辺には大きな店舗もできました。新しい

「日本古来の遊びやものづくりの文化に親しみ、いつまでも大事にしてほしい」と願っています。

